

## 令和2年度 社会福祉法人 友田保育園 事業報告（概要）

- 1 令和2年度の平均入所率は76.3%で、前年度より8.9ポイントマイナスとなり、引き続き定員を下回る状況が続いた。このため、本年度も0歳児を定員より2名多い8名を受け入れ、収入面の確保を図った。また、支出を抑制することにより、年間を通じて安定した運営に努めた。

地域的には、当初の入園児76名のうち54名（71.1%）が友田小学校の学区域である友田町と長淵1丁目の在住である。なお、前年度は63.6%、前々年度が67.0%である。

また、令和2年度の卒園児16名のうち10名（62.5%。前年度52.9%）が友田小学校へ入学している。

平成20年10月から行っている一時預かり事業については、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により延べ7日の利用であった。（前年度11日）

保育園に対する苦情については、特に対応が必要となるものはなかった。

- 2 園児が安全な園生活を送れるようにするため、毎月1回の避難訓練を実施するとともに、9月1日（火）には災害等非常時を想定した引き取り訓練を実施した。また、毎月1回、職員による施設設備の安全自主点検を実施した。

例年行っている交通安全教室については、ぞう組・きりん組の園児が3月16日（火）に青梅市交通公園へ行き、道路の安全な渡り方、歩道の安全な歩き方などを学んだ。

給食については、食材の調達から調理、配膳に至るすべての過程において、食中毒や食物アレルギーを起こすことがないよう細心の注意を払った。

- 3 保育においては、「明るい子」、「元気な子」、「伸びゆく子」を合言葉に、園児が将来、社会生活を円滑に営むための基礎となる生活のルールや規範、思いやりなど、社会性を身につけさせながら、毎日の園生活において遊びを中心に楽しく過ごせるよう保育の充実に努めた。

(1) 言葉の発達を促すため、絵本の読み聞かせを日々計画的に行うとともに、日々の生活発表、「はっぴょうかい」での遊戯や劇の発表等、幼児期から表現活動やコミュニケーションを活発にする活動を積極的に取り入れ、言語活動を豊かにするように努めた。なお、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により回数は減となったが、「英語で遊ぼう」を9回、「絵画教室」を6回、外部講師により実施した。

(2) 恵まれた自然環境を生かして、花や野菜、散歩時の自然観察など自然との触れ合いを深める活動を積極的に行った。

また、平成30年度から借用している東京恵明学園所有農地でのジャガイモなどの植付けや収穫、園庭の一部を使用した季節に合わせた野菜の栽培と生育の観察などの自然体験活動、焼き芋パーティーや季節ごとのクッキング保育などの食育活動を行った。

(3) 子どもたちが自然と運動に親しむことを目的に、散歩では、自然とふれあいながら体力や運動能力が向上するようにし、毎日の体操、冬季（1月～3月）のマラソンなど日常的な活動では身体を動かすことを主に楽しめる遊びを行った。新型コロナウイルス感染症拡大のため本年度の外部講師による「体操教室」は前年度より減となったが19回実施し、運動の楽しさを広げることに努めた。

4 例年であれば、地域の保育園として、次に示す高齢者と園児との交流活動を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できたのは(2)のみである。

(1) 地域の高齢者団体(友田町白菊会)及び園児の祖父母の招待

(2) シルバー人材センター会員によるボランティアの受け入れ

(3) 高齢者施設の訪問

その他、友田小学校との交流会や市内中学生の職場体験学習及び体験ボランティアの受け入れも実施できなかった。

そのような中でも、保育士を目指す実習生を二度受け入れたことは、将来の保育士の育成に寄与し、子どもたちが人とのふれあいを豊かにする体験の一つ機会になったと考えている。

さらに、「園だより」を毎月配布し、法人役員のほか保育園関係者に園における保育の状況をお知らせした。

なお、地域の方々に保育園の活動内容を紹介し理解を深めてもらうため、保育園だより「のびゆく子」を毎月発行し自治会の協力を得て

回覧すること、子育て家庭を支援するための地域の家庭保育の親子を対象にした園開放や育児講座及び保育体験などの「子育てひろば事業」については、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。

- 5 園の運営にあたっては、毎月発行の「園だより」、「クラスだより」及びホームページ等を通じて、保育や保育園の状況などについて情報発信を行い、保育園についての理解を深めてもらえるように努めた。

また、給食においては、給食サンプルを毎日展示（7月～9月を除く）し、また、「食育だより」を園児の家庭に配付し、給食への理解と食育の向上に努めた。

- 6 職員の資質向上、キャリアアップを図るため青梅市保育園連合会主催の研修会、東京都及び東京都社会福祉協議会等が例年実施する研修が新型コロナウイルス感染症防止のため中止或いはオンライン研修となったことから、研修機会は減少したが、参加した研修については研修内容・成果を共有するための研修報告会と園内研修を行った。

また、12月に全職員と園長とで個人面談を行い、職員自らが業務等に取り組む姿勢などを振り返り再確認することで、自己評価の一助とすることができた。また、人事管理上の資料として次年度の運営に向け活かすことができたと考えている。